

市長から

7月5日から6日にかけて発生した「九州北部豪雨」では、河川の氾濫などにより多くの方がその犠牲となり、改めて近年の集中豪雨による災害の恐ろしさを痛感しました。この災害により被災された方や関係者の方々には、心からお見舞いを申し上げます。

市においては、9月1日を「瀬戸内市家族防災会議の日」、その日を含む1週間を「防災週間」と制定し、各家庭で防災について話し合ってもらうためのきっかけとして、8月および9月の広報紙で気象情報や自助・共助の取り組みについてお知らせしました。

また、8月1日には水害を

想定した職員の防災研修を実施し、災害対策本部における指揮・命令など非常時の公助の取り組みについて研修を行いました。

さらに8月21日に市内の小中学校の教頭、事務局職員の合同研修として、学校現場での防災研修を実施しました。

観測史上最大級ともいえる「九州北部豪雨」をはじめ、全国各地で発生している予想もつかない集中豪雨は、瀬戸内市においてもいつ発生するか分かりません。

このため、市役所においては職員一人一人が公助に対する意識を高めるとともに、地域においては自主防災組織での共助の取り組み、また市民の皆さんにおいては自宅周辺でどのような災害が起こり得るのか確認していただくなど、自助の必要性について、

引き続き啓発を行っていきたいと考えています。

空家などへの対策

現在、「瀬戸内市空家等の適正管理に関する条例」の全面施行に向け、準備を進めています。

8月25日には、条例に基づき、法律、不動産、建築関係の専門家、また地域で空家活用の取り組みをしている人などで構成された「第1回瀬戸内市空家等対策協議会」を開催しました。

この会議では、瀬戸内市の空家の現状などについて報告するとともに、空家対策を総合的かつ計画的に実施するための「空家等対策計画」の骨子について協議を行いました。

今後は、この計画の具体策、また放置すれば倒壊などのお

それなど危険な状態にある空家、いわゆる「特定空家」の認定基準などについて協議を行い、今年度末の「空家等対策計画」の策定を目指していく予定です。

住民票・証明書などのコンビニ交付

住民票・印鑑証明書・課税証明書のコンビニ交付の導入に向け、地方公共団体情報



住民票などのコンビニ交付を利用するには、マイナンバーカードが必要です(本紙8ページ参照)

システム構築に申し込みを行い、現在、電算業者が仕様に沿ってシステム構築を行っているところでは、今年、システム確認試験、実店舗試験などを行い、平成30年1月中旬からコンビニ交付が開始できる予定です。

これは、地方自治体のICT化を推進する地方公共団体情報システム機構が、住民が自らの操作で証明書を取得するコンビニ交付について、市役所窓口での証明書交付よりも有利な手数料設定を推奨していること、すでにコンビニ交付を導入している全国自治体の状況なども勘案し設定したものです。

NPO法人ハンセン病療養所世界遺産登録推進協議会(仮称)の設立

ハンセン病療養所の世界遺産登録の推進母体となるNPO法人設立に向け、NPO法人設立準備委員会の第1回を7月5日に、第2回を8月24日に開催し、NPO法人の理事候補者や組織体制、両園を含めた事業費負担のあり方などについて具体化に向けた検討を進めています。

また、8月24日に裳掛地区で第1回の地元説明会を開催し、意見交換を行いました。今後は、NPO法人の役員、定款および予算などを具体化し、11月中旬に設立総会を開催し、年度内のNPO法人認証決定に向け協議を進めていきます。

新火葬場の整備

地権者の皆さんへの説明会を7月20日に敷井公会堂で開催し、基本計画書および今年

度を実施する測量などの概要を説明し、所有地への立ち入りについて承諾をいただきました。

また、当日会議に出席できなかった人には、自宅などを訪問し、会議内容を報告し、所有地への立ち入りの承諾をいただきました。

岡山市との協議については、7月14日に「岡山市・瀬戸内市新火葬場整備推進検討会議」を、8月25日に「担当者会議」を開催し、広域連携の状況の共有を図るとともに、広域連携の手法などを協議しました。

今後も連携を密にしながら、事業の推進に取り組んでいきます。

飯倉公館活用対外発信事業

8月2日に首脳会談や外相会談のほか、各種会議やレセプションなど、対外的な交流活動の場としても活用されている外務省の「飯倉公館」で、各国の駐日大使や関係者を招き、岡山の魅力を発信するレセプションが開催されました。



日本刀の展示

セミナーで「瀬戸内市長船」をPR

これは、地方創生支援の一環として、各県の伝統文化や地場産品のブランド発信、観光客誘致の促進を図ることを目的として、外務省と岡山県共催で行われたものです。

今回、第1部で開催された岡山の魅力発信セミナーでは、日本の伝統的な工芸品でもあり、日本刀の産地として瀬戸内市が世界に誇る「備前刀」をテーマとして取り上げていたことから、市としてもセミナーやロビーでの展示・実演に協力をしたところ。

レセプションには、各国の

日本大使館関係者や海外プレスなどの人、企業関係者など85の国と地域などから約330人にも及ぶ多くの参加があり、日本刀の聖地「瀬戸内市長船」を広くPRすることができ、また国内外に対して、備前長船の魅力を伝えられたことで、より強い関心を持っていただく機会となったものと思っています。

セトフェスの開催

日本大使館関係者や海外プレスなどの人、企業関係者など85の国と地域などから約330人にも及ぶ多くの参加があり、日本刀の聖地「瀬戸内市長船」を広くPRすることができ、また国内外に対して、備前長船の魅力を伝えられたことで、より強い関心を持っていただく機会となったものと思っています。

Kireinaモノ・コト・トコ発見発信事業として開催を予定しているイベント「SETO FES(セトフェス)」については、市観光協会や市商工会、農協、漁協、牛窓海洋スポーツ振興会と「瀬戸内市魅力発見発信事業実行委員会」を組織し、今年10月29日(日)に牛窓ヨットハーバーで開催することとしています。

セトフェスは牛窓を中心に撮影され、今年の2月に公開された映画「君と100回目」の恋」に登場する架空のイベ



会場となる牛窓ヨットハーバー

用語の解説・備考

君と100回目の恋
岡山県内で撮影された、ラブストーリーの映画(主演:miwaさんと坂口健太郎さん)。牛窓がストーリーに欠かせないシーンのロケ地になり、多くの市民もエキストラで参加した。

有害鳥獣対策の活動

シカ、イノシシなどの有害鳥獣による農作物への被害対策に取り組みため、地域おこし協力隊1名が、7月1日から勤務しています。

現在、市の補助事業に加え、国、県の補助事業の積極的活用など、これまで以上に効果的、機動的な対応策を検討しているところだ。

また最近では、人里に近い場所での有害鳥獣の目撃情報も多数報告されていることから、今まであまり実施していなかった生息域などの調査研究にも取り組み、より有効な



捕獲されたシカ

対策につなげ、合わせて、有害鳥獣の行動や習性などに関する正しい知識の習得も必要であることから、地域や集落へ出向いての説明会の開催も検討しているところだ。

引き続き、駆除班の皆さんの協力もいただきながら、より一層の鳥獣被害の減少につながる対策を講じていきたいと思っています。

教育長から

学力・学習状況調査の結果

本年4月に実施された学力・学習状況調査の結果について概要をお知らせします。今年度は、全国調査が小学校6年生と中学校3年生の国語、算数・数学の2教科を、県調査は拡充され小学校3年生から5年生、中学校1年生を対象に国語、算数・数学の2教科を、中学校2年生は国語、数学、英語の3教科を、市独自の調査は県調査の拡充

に伴い中学校1年生の社会、理科の2教科について実施しました。

その結果、全国調査については、全国、県に比べ両学年、教科とも平均以上となつています。県および市の調査については、概ね目標値と同程度以上ですが、一部学年の教科で課題が見られました。

学習状況調査では、学習面においては、自分で計画を立てて家庭学習をしている児童生徒は増加しています。

生活面においては、家庭でゲームをする時間や携帯電話、スマートフォンの使用時間が少ない児童生徒は、正答率が高い傾向が見られます。

学力・学習状況調査は、児童生徒の学力面と生活面の実態や課題を的確に把握し、各学校の実情に応じた取り組みや児童生徒の実態に応じた指導を進める上で、貴重な資料となつていきます。

今後も学力・学習状況調査の結果を真摯に捉え、教師の授業力と児童生徒の学習意欲の向上に生かしていきます。



平成30年度の完成に向けて進む 邑久中学校北棟大規模改造工事

学校施設の整備

邑久中学校北棟大規模改造工事は、8月初旬に仮設校舎への引っ越しも終わり、平成30年度の完成に向けて、本格的に本体工事を進めています。

また、公共施設等先進的C₂排出削減対策モデル事業による小中学校の省エネ型空調設備やLED照明などの整備については、夏季休業期間に牛窓中学校と長船中学校の改修を終えました。

それぞれの整備に当たっては、学校および関係機関と連携を図りながら、夏季休業期間を有効に活用するなど、学校教育活動への影響に配慮しながら計画的に実施するとともに、事故やけがの無いよう安全管理を徹底しています。

邑久学校給食調理場の業務委託

更新が必要だった邑久学校給食調理場の炊飯器については、夏季休業期間に整備を行い、2学期以降の米飯委託の回数を現在の週3回から2回とし、1回を調理場で炊飯する計画としていました。

これを見据え、臨時調理員を確保するため、4月から賃金単価の見直しも図り、ホームページやハローワークなどでの求人を引き続き行ったところですが、炊飯器稼働を含めた最低必要人数が確保できませんでした。そのため、週3回の炊飯業務委託については2学期以降も継続することとしました。

また、今年度中に退職者の予定もあり、今後もさらに安全・安心で安定的な給食の提供のための調理員の確保が難しい状況が考えられるため、平成30年度からは邑久学校給食調理場の調理・配送・洗浄業務について民間委託をせざるを得ない状況となっております。

瀬戸内発見伝

巻之百二十九

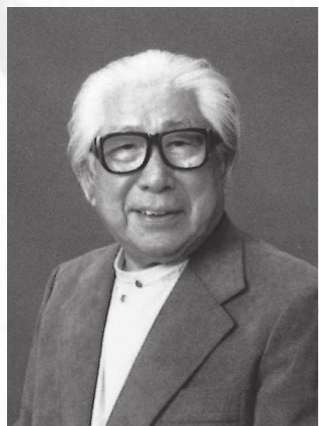
戦後の写真界をリードした

一員・緑川洋一

緑川洋一（1915、2001）は邑久町虫明出身の写真家で、作品はイギリスのピクトリア&アルバート美術館や東京都写真美術館などに永久保存されています。

大学在学中、趣味の模型飛行機の制作を通して写真に出会い、歯科業のかたわら写真誌のコンテストで入選を重ねました。

緑川は岡山在住でありながら、植田正治など戦後の写真界をリードした写真家たちとの交流を続け、その一員として活発に作品を発表していき



緑川洋一氏

七色に輝く瀬戸内海が自然の原風景

緑川が幼少から親しんだ瀬戸内海は、自然の原風景であり、鋭敏な色彩への感受性を培ったのも七色に輝く海であったといえます。

さまざまな実験から生まれた独自の世界

デジタルカメラや画像編集ソフトが一般的でない当時から、魔術的ともいわれる高い撮影技術と現像技術によって、すべて自力

で表現しているのは驚くべきことです。

1950年代から、鳴門の渦潮を夜間の長時間露出で写したモノクロの作品などを皮切りに、ユニークな作品を制作しています。

1953（昭和28）年第38回二科展において、西大寺観音院本堂にひしめく裸の集団をダイナミックに撮影した「西大寺観音院会陽」は二科賞を受賞するなど、写真家として大きな評価を得るようになりました。

その後、撮影旅行で訪れた北欧では、海辺に並ぶ、彩り豊かに塗り分けられた家々を見て、一つの画面に何色もの光のきらめきを写し取る色彩表現の着想を得ました。

日本の自然美へ着目

被写体として日本ほど変化のある自然と風土、その繊細な自然のうつろいは他の国には無いという思いを強くした緑川は、日本の風景写真を志



「父島の海—小笠原国立公園—」

向していきます。

自然の風景や四季の移り変わりを、多重露光を使った独特な技法で撮影。カラーフィルムターを使い表現した七色の波のきらめき、長時間露出により映し留められた光の軌跡、特殊撮影により展開される現実にはない光景など、大胆にデザインされた自然の風景は写真界を驚かせました。このような作品群は、緑川洋一の代名詞ともなっています。

瀬戸内市立美術館では、10月21日から「緑川洋一展—山紫水明—」を開催します（本紙12ページ参照）。この展示では、緑川がたどり着いた日本の自然美を中心とした作品を紹介する内容となっております。